

10月のまちの話題

本郷団地子ども会が全国表彰受賞

長年の活動をたたえ全国子ども会連絡協議会から表彰

本郷団地子ども会（結城志保会長）が平成27年度全国子ども会連合会表彰を受賞し10月8日、兵頭利彦教育長から同会へ表彰状の伝達が行われました。本郷団地子ども会は、子ども会主催のお祭りや敬老会など、30年以上にわたり地域に根差した活発な子ども会活動を行っており、その活動が高く評価され今回の受賞となりました。

当日は、同会を代表して結城志保会長（6年生）、春木涼佑くん（6年生）、寺坂俊星くん（5年生）、尾谷優太くん（5年生）のほか、同会育成会役員や保護者、厚真町子ども会育成連絡協議会（厚子連役員など約20人）が出席。伝達後、兵頭教育長が「今回の受賞は、現会員はもちろん、過去に活動に携わった方たちや活動を支えてくれている保護者の皆さんの連携が高く評価されたものだと思います。これからもみんなで仲良く協力して、長く活動が続けてください」、続いて、野澤政博厚子連会長が「この子ども会活動は社会に出てからきつと役立ちます。この表彰を勲章にして、これからも活動が続けてください」と祝辞を述べました。最後に、受賞者を代表して結城志保会長が「これからもみんなで協力して、楽しい活動を行っていきたいと思います」とあいさつを述べました。



兵頭教育長から表彰状の伝達を受ける結城会長



これからもみんなで楽しく活動が続けてください

ＪＡとまこまい広域が今年も学校給食用に新米寄贈

10月9日、ＪＡとまこまい広域農業協同組合の秋永徹代表理事組合長らが町長室を訪れ、宮坂町長と兵頭教育長に新米の厚真産さくら米（ななつぼし）50kgを寄贈しました。

寄贈にあたり、秋永組合長が「今年は低温で生育が心配されたが、皆さんの努力で、例年よりさらに質の良いおいしいお米ができた。農家の人たちが汗流して作ったお米をぜひ食べてください」とあいさつ。宮坂町長は「農家の方々が丹精込めて作られたおいしいお米を、みんなで食べさせていただきます」とお礼を述べていました。



厚真のおいしいお米をたくさん食べてね



町長へ報告書を手渡す石橋委員長（左）

町民目線で町の事業を評価 外部評価委員会が結果報告

町が実施する行政評価の客観性や透明性を確保し、効率的かつ効果的な町政運営を推進するために今年度から開催された厚真町行政評価外部評価委員会（石橋俊樹委員長）での評価結果がまとまり10月19日、石橋委員長が役場を訪れ、宮坂町長に評価結果の報告を行いました。

石橋委員長は「短時間での事業評価は大変難しかったが、町民目線での評価を今後の事業推進に生かしてほしい」と話し、宮坂町長は「町民の声をしっかりと受け止め、行政サービスの質を向上させたい」と答えていました。

“マツカワ”ってどんなお魚？ こども園つみきでマツカワガレイの食育教室



マツカワを触る園児たち

10月29日、こども園つみきで「マツカワガレイの食育教室」が開催されました。これは、厚真沖やむかわ沖でとれる今が旬の貴重な魚であるマツカワのことを知ってもらいたいと町産業経済課が企画し、胆振太平洋海域漁業振興協議会の事業を活用して行ったもの。

当日は、むかわ沖でその日の朝水揚げされた体長50cm、重さ5・1kgのマツカワが登場。園児たちは、初めて見る大きな魚に驚きつつも、興味津々の様子でマツカワを触り「ザラザラしてる」、「なんか痛い」、「裏はツルツルしてるね」などと感想を述べていました。また、この日はこども園つみきだけの特別メニューとして、マツカワの唐揚げを給食で提供。園児たちは「おいしい！」と顔をほころばせていました。

教室を企画した町産業経済課の宮久史主任は「子どもたちにマツカワのことを知ってもらい、今後いろいろなPRをしていきたい」と話していました。



胆子連スポーツ交流会で厚子連の小学生チームが初優勝

室蘭民報社旗・第43回胆振地域子ども会スポーツ交流会洞爺湖大会（ミニバレーボール）が10月25日、洞爺湖町で開催され、胆振管内各市町の小学生15チーム・75人が熱戦を繰り広げました。厚真町からは、小学生の部に「レインボー」が、中学生の部に「フェアリーズ」が出場。レインボーは決勝戦で室蘭市のチームに勝利し、小学生の部に出場した厚真勢として初優勝に輝きました。



苫小牧工業高校建築科の生徒が町内の建築現場で見学会

10月8日、一般社団法人室蘭建設業協会主催の「建築工事現場見学会」が行われ、北海道立苫小牧工業高等学校建築科の2年生40人が、上厚真地区に建設中の厚南地区認定こども園・児童会館の建築工事現場を見学しました。

当日は、建設現場および町の担当者が工事概要や建設目的などを説明。その後、安全帯の装着・使用方法の実習と工事現場見学を行いました。



町土地改良区（山田英雄理事長）主催による落水式が10月20日、厚真ダム水神宮で行われました。

落水式には、町土地改良区、町、町議会、ＪＡとまこまい広域、農業委員会、いぶり農業共済組合、地元自治会関係者など約30人が参列。参列者らは、今年も水が枯れることなくすべての用水に水が行きわたり、干ばつ被害なく実りの秋を迎え上質米が収穫できたことを感謝し、玉串を捧げていました。

豊穣の秋に感謝・厚真ダムで落水式

目指せ優勝！目指せ新米！チャリティーPG

町社会福祉協議会（松平功会長）主催の「第15回チャリティーパークゴルフ厚真大会」が10月8日、町内外から116人が参加し開催されました。

当日は、強風と雨という悪天候の中、参加者は賞品の「さくら米（新米）」の獲得と上位入賞を目指して真剣にプレーしていました。

また、この大会の収益金は、全額「赤い羽根共同募金」へ寄附されました。



女性消防団員が園児対象に防災教室

胆振東部消防組合厚真消防団女性消防による防災教室が10月20日、こども園つみきと宮の森保育園で行われました。女性消防は昨年から園児を対象とした防火・防災教室を実施。今年は自然災害（地震）の話を中心に、地震が起きた時の対応等について、紙芝居やクイズを用いて園児にわかりやすく説明していました。

班長の山口真由美さんは「子どもたちも関心を持って意欲的に見てくれていると感じます。今後も工夫を凝らして、子どもたちに興味を持ってもらえるような取り組みをしていきたいです」と話していました。



「自分の命は自分で守ろう」紙芝居でお勉強

田んぼのオーナーが稲刈り体験

10月10日、幌内地区で町観光協会（寺坂文秀会長）主催による「田んぼのオーナー稲刈り体験」が行われました。

当日は、子どもから大人まで21組75人が参加。参加者らは、前日までの雨で少しぬかるんだ田んぼに入り、お米がたわわに実った稲穂を一株ずつつかみ、鎌で稲刈りを行いました。また、午後からは陶芸体験も行われ、6組15人が陶芸体験を行いました。

今回刈り取った稲は、乾燥させた後、11月中旬頃に玄米または精米してオーナーの皆さんへ手渡されとのことでした。



親子で力を合わせて稲刈り

防火パレードで火災予防を呼びかけ

秋の火災予防運動期間（10月15日～31日）に合わせ、胆振東部消防組合厚真支署と厚真消防団による防火啓発パレードが10月15日、厚真市街地と上厚真市街地の2カ所で行われました。

厚真市街地では、職団員やこども園つみき園児、地域住民など約80人と消防車両が市街地を行進し、火災予防の注意喚起を行いました。

パレード終了後、厚真消防団の木村幸一団長は「これから冬期に向かい、火災が増える時期を迎えます。火器の取り扱いについて家族で話し合い、火災予防に努めてください」と呼びかけていました。



市街地を行進し火災予防を呼びかけ

治療や予防で健康寿命を延ばそう！

厚真町健康づくり講演会が10月29日、総合ケアセンターゆくりで開催され、70人が出席しました。

今回は、あつまクリニック理事長の石間巧先生を講師に「今日からはじめる腰痛・膝痛予防」と題して、診療を通して見えてくる厚真町民の痛みの特徴を踏まえながら、腰痛や膝痛の原因や症例、治療法や予防方法について写真や図を使って説明し、器具等を使わなくてもできる腰痛体操を紹介。石間先生は「治療や予防で健康寿命を延ばし、元気なうちに治療や手術をして元気に過ごすのは大切なこと」と話していました。



スライドを使って説明する石間先生

厚真中学校でハロウィンパーティー

10月30日、厚真中学校（渋川賢一校長）の全校生徒59人がハロウィンパーティーを開催しました。これは、アメリカの一大行事であるハロウィンを経験し、外国語学習により一層関心を抱き、主体的に学習に臨む姿勢を養うことを目的に開催されたもの。

パーティーでは、生徒全員でハロウィンのダンスを踊り、オール英語でのレクリエーションを行いました。また、この企画に先立ち、各学年ではALTからハロウィンの歴史を教わり、学年ごとにハロウィンのゲームなどを行ってアメリカ文化をより深く学習しました。



“Trick or Treat”を行う1年生

町防災アドバイザーによる研修・授業で防災について知識を深める

10月7日と8日の両日、町防災アドバイザーの定池祐季さんによる防災研修や防災授業が開催され、保育士や中学生が防災について学び、知識を深めました。

7日は、町内のこども園や保育園に勤務する保育士対象の防災研修が行われ、「幼児向けの防災教育について」と題し、よしの幼稚園（釧路市）の事例をもとに防災教育について学習。また、8日は厚真中学校で全校生徒対象の防災授業が行われ、「災害からいのちを守るために」と題し、防災で大切なことについてのクイズやクロスロードゲーム（カードに書かれた事例を自らの問題として考え、イエスカノーで自分の考えを示し、参加者同士が意見交換を行いながら進めるゲーム）が行われました。



厚真中学校での防災授業の様子

厚真町のおいしい特産品を宣伝・販売

10月10日、あつま新鮮組主催の「あつま特産市」がホクレンショップ苫小牧店前で開催され、買物客に厚真町の特産品を宣伝しました。

会場では、とれたての新鮮野菜やジンギスカン、おふくろみそ、ハスカップジャムなど町のさまざまな特産品販売のほか、その場で精米した新米を升ですくい取って提供する催しなども開催されました。

また、当日は放課後こども教室の参加児童ら11人も店員を務め、会場準備や商品の袋づめ・陳列、買物客へチラシを配るなど、一生懸命宣伝や販売を行っていました。



特産品を宣伝する放課後子ども教室の児童たち

厚真の遺跡群が歴史の解明資料に？

10月9日から11日の3日間「厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立」が開催され、道内外からのべ300人が参加しました。

10日・11日に行われたシンポジウムでは、東北大学大学院の柳原敏昭教授から、アイヌ文化の誕生と平泉藤原氏・鎌倉幕府の関わりや商人・宗教者の活動について問題提起され、各分野の研究者らが報告・講演を行いました。「厚真町は本州と北海道の交易のターミナルであった可能性が高く、厚真の遺跡群は北海道への仏教伝来の時期などを解明する資料になるのでは」という話に、参加者は関心を寄せていました。



問題提起を行う柳原教授

小学生が文化祭で学習の成果を発表

厚真町教育研究会（油谷諭会長）主催の厚真町小学校文化祭が10月29日、厚真中央小学校で開催されました。芸能発表会では、上厚真小学校が器楽と全校合唱、厚真中央小学校が鼓笛演奏と全校合唱を行い、児童や先生、観覧の保護者らから大きな拍手が送られていました。また、最後に両校の全児童による「ともだちになるために」の全体合唱が披露され、児童たちは心を一つにして美しい歌声を響かせていました。

閉会後は、いじめ防止に関する各校の取り組みが発表され、代表児童が学校で実施しているさまざまな取り組みについて発表しました。



元気いっぱい！上厚真小学校児童の全校合唱